

証券コード：4547

決算補足資料

2020年3月期 通期決算

2020年5月12日

 **キッセイ薬品工業株式会社**

目次

【決算短信「当期の経営成績の概況」より抜粋】	P 1
I. 連結損益計算書の推移	P 2
II. 連結貸借対照表の推移	P 4
III. 連結キャッシュ・フロー計算書の推移	P 6
IV. 配当の推移	P 7
V. 主な医薬品の売上推移	P 8
VI. 新薬開発状況（自社）	P 9
VII. 新薬開発状況（導出）	P 9

本資料記載の将来見通しは、既存の情報や様々な動向についてのキッセイ薬品による 2020 年 5 月時点での分析に基づいています。実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により見通しと異なることがあります。

【決算短信「当期の経営成績の概況」より抜粋】

・売上高の状況

医薬品事業の売上高は、51,308百万円（前連結会計年度比16.6%減）となりました。主力製品における積極的な医薬情報活動を推進いたしましたことなどにより、過活動膀胱治療薬「ベオーバ錠」、高リン血症治療薬「ピートルチュアブル錠」及び「ピートル顆粒分包」、糖尿病治療薬「グルベス配合錠」及び昨年6月に新発売いたしました「グルベス配合OD錠」（剤形追加）などの売上が増加いたしました一方、前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬「ユリーフ錠」及び「ユリーフOD錠」の後発品の発売による売上の減少などにより、減収となりました。また、JCRファーマ株式会社と共同開発を行いました腎性貧血治療薬「ダルベポエチン アルファBS注JCR」を昨年11月より発売いたしております。

なお、MSD株式会社が製造販売している糖尿病治療薬「マリゼブ錠12.5mg/25mg」、並びに昨年9月に新発売され、フェリング・ファーマ株式会社とともにコ・プロモーション活動を実施してまいりました男性における夜間多尿による夜間頻尿治療薬「ミニリンメルトOD錠25µg/50µg」に加え、夜尿症・中枢性尿崩症治療薬「ミニリンメルトOD錠60µg/120µg/240µg」及び「デスモプレシン製剤」につきましては、本年4月より当社が販売を開始いたしております。

情報サービス事業の売上高は6,631百万円（前連結会計年度比19.9%増）、建設請負事業の売上高は3,610百万円（前連結会計年度比6.5%減）、物品販売事業の売上高は1,684百万円（前連結会計年度比21.9%増）となりました。

・利益の状況

利益面では、研究開発費を主に販売費及び一般管理費が減少いたしました一方、減収及び売上原価率の上昇がありましたことなどにより、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は減益となりました。なお、特別利益として投資有価証券売却益を計上いたしております。

・研究開発の状況

ライジェルファーマシューティカルズ社（アメリカ）との間で、日本・中国・韓国・台湾における独占的な開発権及び販売権取得に関する契約を締結いたしました慢性特発性血小板減少性紫斑病治療薬R788（開発番号、一般名：ホスタマチニブ）につきましては、昨年9月より、国内第Ⅲ相臨床試験を開始いたしました。また、本年3月には、CGオンコロジー社（アメリカ）が膀胱がんを対象に開発中の腫瘍溶解性ウイルス療法CG0070（開発番号）につきまして、同社との間で中国を除く、日本、韓国、台湾等アジア20か国における独占的な開発権及び販売権取得に関する契約を締結いたしました。脊髄小脳変性症治療薬KPS-0373（開発番号、一般名：ロバチレリン）につきましては、第Ⅲ相臨床試験を終了し、これまでの試験により得られた結果について重症度による部分集団解析などの詳細な検討を行うとともに、当局との協議を進めております。これらの併合解析（事後解析）の結果につきましては、先般、医学雑誌に論文掲載がなされております。なお、ワイズ・イー・シー株式会社から国内での開発権及び販売権を取得し、悪性中皮腫治療薬として開発を進めておりましたYS110（開発番号）は、本剤の開発戦略、当社研究開発パイプライン等を総合的に検討した結果、開発中止を決定し、権利を同社に返還いたしました。

I. 連結損益計算書の推移

(百万円)

項目	決算期 2019年 3月期	2020年3月期			2021年3月期予想		
		予想*1	実績	前期比	通期	前期比	うち上期
売上高	72,297	62,000	63,234	△12.5%	65,500	3.6%	30,700
キッセイ薬品	61,520	51,000	51,308	△16.6%	54,500	6.2%	26,700
医薬品	50,958	40,700	41,397	△18.8%	46,500	12.3%	22,700
ヘルスクエア食品	3,789	4,000	3,840	1.3%	4,000	4.2%	2,000
その他*2	6,772	6,300	6,070	△10.4%	4,000	△34.1%	2,000
情報サービス事業	5,532	6,100	6,631	19.9%	5,800	△12.5%	2,400
建設請負事業	3,862	3,500	3,610	△6.5%	4,100	13.6%	1,100
物品販売事業	1,381	1,400	1,684	21.9%	1,100	△34.7%	500
(売上高のうち輸出)	(6,153)	(5,300)	(5,731)	(△6.9%)	(3,600)	(△37.2%)	(1,800)
売上原価 (原価率%)	26,731 (37.0)	27,500 (44.4)	28,328 (44.8)	6.0%	34,600 (52.8)	22.1%	15,700 (51.1)
売上総利益	45,566	34,500	34,905	△23.4%	30,900	△11.5%	15,000
販売費及び一般管理費	39,363	33,000	33,048	△16.0%	35,500	7.4%	16,200
研究開発費 (売上高比%)	15,711 (21.7)	10,600 (17.1)	10,767 (17.0)	△31.5%	12,400 (18.9)	15.2%	5,000 (16.3)
営業利益	6,202	1,500	1,857	△70.1%	△4,600	-	△1,200
営業外収益	1,224	1,400	1,430	16.9%	1,400	△2.1%	750
受取利息及び配当金	1,112		1,227	10.3%			
その他の収益	111		203	82.8%			
営業外費用	257	200	859	234.1%	100	△88.4%	50
支払利息	23		23	0.4%			
その他の費用	233		835	257.7%			
経常利益	7,169	2,700	2,429	△66.1%	△3,300	-	△500
特別利益	4	1,650	2,264	-	7,100	213.6%	2,600
特別損失	53	50	62	18.5%	-	-	-
税金等調整前当期純利益	7,121	4,300	4,630	△35.0%	3,800	△17.9%	2,100
法人税、住民税及び事業税	1,634	400	390	△76.1%	1,400	259.0%	600
法人税等調整額	△47	950	1,351	-	△740	-	△120
非支配株主に帰属する 当期純利益	54	50	71	31.9%	40	△43.7%	20
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,481	2,900	2,817	△48.6%	3,100	10.0%	1,600

(包括利益)

(8,903)

(12,646)

(42.0%)

*1：2020年3月期第2四半期決算発表時に公表した予想数値

*2：国内販売提携先供給額、技術料売上（導出テーマに係る契約金、マイルストーン収入、ランニングロイヤリティ）、コ・プロモーションフィーの合計額

売上高	<p>実績： キッセイ薬品：16.6%減収 医薬品が減少。医薬品ではベオーバ、ピートル、グルベスなどが増加したものの、後発品の発売によるユリーフの減少などにより全体では減少。その他では、国内販売提携先供給額、技術料売上がともに減少。</p> <p>その他の事業： 情報サービス事業が19.9%増収、建設請負事業が6.5%減収、物品販売事業が21.9%増収。</p> <p>予想： キッセイ薬品：6.2%増収 医薬品では、引き続きピートル、ベオーバ、グルベス、ダルベポエチナルファBS注などの育成を図るとともに、本年4月に販売移管が行われたマリゼブ、ミニリンメルトの寄与などにより増収の見込み。 ヘルスクエア食品は増加、その他は国内販売提携先供給額、技術料売上がともに減少の見込み。</p> <p>その他の事業： 建設請負事業にて増収の見込み。情報サービス事業、物品販売事業にて減収の見込み。</p>
売上原価	<p>実績：売上原価率は7.8ポイント上昇 製品構成の変動、薬価改定の影響などによりキッセイ薬品の売上原価率が上昇。</p> <p>予想：売上原価率は8.0ポイント上昇 キッセイ薬品の売上原価率は製品構成の変動、薬価改定の影響などにより上昇を見込む。その他の事業においても事業構成の変動などにより上昇を見込む。</p>
販売費及び一般管理費	<p>実績：前期比16.0%減少 販売費、一般管理費、研究開発費の全てで減少。研究開発費の減少は、前年度に計上した新規導入テーマの契約一時金の反動などによる。</p> <p>予想：前期比7.4%増加 販売費、研究開発費が増加の一方、一般管理費は減少の見通し。研究開発費の増加は、既存導入テーマのマイルストーン支払いなどによる。</p>
営業外損益	<p>実績：その他の費用に有価証券評価損などを計上。</p> <p>予想：特別なものは見込んでいない。</p>
特別損益	<p>実績：投資有価証券売却益、固定資産処分損などを計上。</p> <p>予想：特別利益として投資有価証券売却益の計上を見込む。</p>

【その他項目（連結）】

(百万円)

項目	決算期 2019年 3月期	2020年3月期			2021年3月期予想		
		予想*	実績	前期比	通期	前期比	うち上期
減価償却費	2,607	2,600	2,562	△1.7%	3,500	36.6%	1,700
設備投資額	1,177	900	970	△17.6%	1,020	5.2%	440
主要内容	生産設備等 442 その他 735	生産設備等 230 その他 670	生産設備等 232 その他 737		生産設備等 650 その他 370		生産設備等 240 その他 200
期末従業員数(人)	1,907	-	1,892	△15	-	-	-

*：2020年3月期第2四半期決算発表時に公表した予想数値

II. 連結貸借対照表の推移

(百万円)

項目		決算期	2019年 3月期	2020年 3月期	増減
資 産	流動資産		95,782	96,677	894
	現金及び預金		26,325	36,329	10,003
	受取手形及び売掛金		26,963	19,462	△7,500
	特定金銭信託及び有価証券		26,651	26,152	△499
	棚卸資産		13,965	13,439	△525
	その他の流動資産		1,877	1,293	△583
	固定資産		117,739	135,117	17,378
	有形固定資産		25,503	24,605	△897
	無形固定資産		1,519	1,511	△7
	投資その他の資産		90,716	108,999	18,283
	投資有価証券		86,958	105,158	18,200
	長期前払費用		1,999	2,103	103
	繰延税金資産		644	677	33
	その他の投資等		1,165	1,097	△67
	貸倒引当金		△50	△36	13
資産合計			213,522	231,794	18,272

現金及び預金	・利益による増加があったことに加え、前期末の金融機関休日による売掛金未決済の反動
受取手形及び売掛金	・前期末の金融機関休日による売掛金未決済の反動、医薬品事業における減収に伴う売掛債権の減少
特定金銭信託及び有価証券	・時価評価による評価損の計上による減少
棚卸資産	・医薬品事業における原材料の減少、建設請負事業における未成工事支出金の減少
その他流動資産	・医薬品事業における前払費用の減少
有形固定資産	・主として、減価償却による減少、売却などによる土地の減少
無形固定資産	・主として、減価償却による減少
投資有価証券	・主として、時価評価による含み益の増加
長期前払費用	・減価償却による減少の一方で、新規取得資産の計上による増加

(百万円)

項目		決算期	2019年 3月期	2020年 3月期	増減
負 債	負債合計		30,814	38,824	8,009
	流動負債		13,801	17,024	3,222
	支払手形及び買掛金		4,347	5,237	890
	短期借入金		1,764	1,746	△18
	未払法人税等		465	196	△269
	その他の流動負債		7,223	9,843	2,619
	固定負債		17,013	21,800	4,787
	長期借入金		1,930	13	△1,916
	繰延税金負債		11,388	17,191	5,803
	退職給付に係る負債		2,750	3,572	821
その他の固定負債		942	1,022	79	
純 資 産	純資産合計		182,707	192,970	10,262
	株主資本		143,001	143,435	434
	資本金		24,356	24,356	-
	資本剰余金		24,226	24,226	0
	利益剰余金		106,026	106,461	434
	自己株式		△11,607	△11,608	△0
	その他の包括利益累計額		39,261	49,029	9,768
	非支配株主持分		444	504	60
負債及び純資産合計			213,522	231,794	18,272

支払手形及び買掛金	・医薬品事業における買掛金（商品仕入）の増加、その他の事業における買掛債務の減少
未払法人税等	・医薬品事業における所得減に伴う減少
その他の流動負債	・医薬品事業における未払金の増加、建設請負事業における未成工事受入金の増加
長期借入金	・医薬品事業における長期借入金の返済
繰延税金負債	・投資有価証券の含み益増加に伴う増加
退職給付に係る負債	・主として、年金資産から生じた不利差異による増加
利益剰余金	・期中配当金支払い△2,382、親会社株主に帰属する当期純利益+2,817
その他の包括利益累計額	・投資有価証券の含み益増加に伴う評価差額金の増加、退職給付に係る調整累計額の増加

Ⅲ. 連結キャッシュ・フロー計算書の推移

(百万円)

項目	決算期 2019年 3月期	2020年 3月期	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,346	13,934	7,588
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,087	490	2,577
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,306	△4,419	△2,113
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	△0	△2
現金及び現金同等物の増減額	1,954	10,004	8,050
現金及び現金同等物の期首残高	47,360	49,315	1,954
現金及び現金同等物の期末残高	49,315	59,319	10,004

主な増減要因（前期比）

1. 営業活動によるキャッシュ・フロー：増加

営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前当期純利益の減少、たな卸資産の増加などの資金の減少要因がありましたが、売上債権の減少、法人税の支払額の減少などが資金の増加要因となり、前連結会計年度に比べ7,588百万円増の13,934百万円となりました。

2. 投資活動によるキャッシュ・フロー：増加

投資活動の結果得られた資金は、投資有価証券の売却による収入の増加などにより、前連結会計年度に比べ2,577百万円増の490百万円となりました。

3. 財務活動によるキャッシュ・フロー：減少（支出増）

財務活動の結果使用した資金は、前連結会計年度に比べ2,113百万円支出増の4,419百万円の支出となりました。主な要因は、長期借入金の返済による支出の増加です。

IV. 配当の推移

(円)

項目	決算期 2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期予想
中間配当	24	25	26	27
年間配当	48	50	52	54

(参考)

(百万円)

自己株式の取得	4,462	-	-	-
(取得株式数)	(1,600千株)	-	-	-
自己株式の消却	5,695	-	-	-
(消却株式数)	(2,500千株)	-	-	-

V. 主な医薬品の売上推移

(百万円)

製品名	決算期 2019年 3月期実績	2020年3月期			2021年3月期予想		
		予想*1	実績	前期比	通期	前期比	うち上期
過活動膀胱治療薬 ハオーバ	706	2,100	3,185	350.7%	5,900	85.2%	2,800
デスマプレシン製剤 ミニリンメルト、他*2	-	-	-	-	4,400	-	1,800
排尿障害改善薬 ユリーフ	17,810	6,200	5,857	△67.1%	3,700	△36.8%	2,000
高リン血症治療薬 ピートル	4,801	6,300	5,752	19.8%	6,600	14.7%	3,200
腎性貧血治療薬 エポエチンアルファBS注JCR	6,015	5,000	5,520	△8.2%	3,500	△36.6%	1,900
腎性貧血治療薬 ダルベポエチン アルファBS注JCR	-	500	812	-	2,700	232.5%	1,200
糖尿病治療薬 グルベス	4,428	4,800	4,501	1.7%	4,700	4.4%	2,300
糖尿病治療薬 グルファスト	1,678	1,300	1,406	△16.2%	1,100	△21.8%	600
糖尿病治療薬 マリゼブ	-	-	-	-	2,000	-	900
口腔乾燥症状改善薬 サラジェン	1,617	1,600	1,604	△0.8%	1,570	△2.1%	800
潰瘍性大腸炎治療薬 レクタブル	663	1,000	756	14.1%	820	8.5%	400
高脂血症治療薬 ヘザトール	1,709	1,420	1,364	△20.1%	1,160	△15.0%	600

*1：2020年3月期第2四半期決算発表時に公表した予想数値

*2：ミニリンメルトOD錠25μg/50μg/60μg/120μg/240μg、デスマプレシン点鼻液0.01%協和、デスマプレシン・スプレー2.5協和/10協和、デスマプレシン注4協和

VI. 新薬開発状況（自社）

(2020年5月現在)

開発段階	開発番号 (一般名)	開発区分	予定適応症	主な作用等	備考
第Ⅲ相	KPS-0373 (ロバチレリン)	導入品/塩野義製薬	脊髄小脳変性症	甲状腺刺激ホルモン放出 ホルモン(TRH)作用	第Ⅲ相臨床試験終了 PMDAと協議中
	AJM300 (カテグラストメチル)	導入品/EAファーマ 共同開発	潰瘍性大腸炎	α4インテグリン阻害作用	
	CCX168 (アバコバン)	導入品/ピフォー・フレゼニ ウス・メディカル・ケア・ リーナル・ファーマ(スイス)	顕微鏡的多発血管炎、 多発血管炎性肉芽腫症	補体C5a受容体阻害作用	第Ⅲ相臨床試験終了
	R788 (ホスタマチニブ)	導入品/ライジェルファーマ シューティカルズ(アメリカ)	慢性特発性血小板 減少性紫斑病	チロシキナーゼ阻害作用	
第Ⅱ相	KLH-2109 (リンザゴリクス)	創製品	子宮内膜症	GnRHアンタゴニスト	
	MR13A9 (ジフェリケファリン)	導入品/丸石製薬 共同開発	透析患者における そう痒症	κオピオイド受容体刺激作用	
	KDT-3594	創製品	パーキンソン病	ドパミン受容体刺激作用	

※ 前回公表時(2020年1月)からの変更点: YS110 … 第Ⅰ/Ⅱ相 → 開発中止により削除

VII. 新薬開発状況（導出）

(2020年5月現在)

開発段階	開発番号/ 一般名	提携企業	権利地域	予定適応症	主な作用等
承認申請中	ミチグリニド (mitiglinide)	エーザイ(日本)	アセアン*1	2型糖尿病	速効・短時間型 インスリン分泌促進作用
	シロドシン (silodosin)	エーザイ(日本)	アセアン、インド、スリランカ *2	前立腺肥大症に 伴う排尿障害	α1Aアドレナリン受容体 拮抗作用
第Ⅲ相	KLH-2109 (linzagolix)	オブシーバ(スイス)	日本、一部のアジアを除く 全世界	子宮筋腫	GnRHアンタゴニスト
	KLH-2109 (linzagolix)	オブシーバ(スイス)	日本、一部のアジアを除く 全世界	子宮内膜症	GnRHアンタゴニスト
第Ⅱ相	ベドラドリン (bedoradrine)	メデイシノバ(アメリカ)	日本を除く全世界	喘息の急性発作	β2アドレナリン受容体 刺激作用

※ 前回公表時(2020年1月)からの変更点: なし

*1: 発売: タイ、フィリピン、カンボジア、ミャンマー、承認: ラオス、申請中: ベトナム

*2: 発売: タイ、インド、インドネシア、フィリピン、カンボジア、ミャンマー、マレーシア、申請中: アセアン2カ国